昭和22年

9月26日より

昭和二十二年九月二十六日

九月二十六日　出勤、高橋書岳父危篤とて休み。午後大学図書館の仕事。帰宅。永江さそひ来る風邪と。ケッ出勤途上、湖南「玉郎中世史」（三三）買い修出氏いきする。吉田君に逢ひて八木嬢に云ふ。外は稀で今日ありし。くくいてのちのしかしばちうしまずかいるロわれはよばれいそくる。

九月二十七　土曜、出勤。ある洋文の後学部時君来る。ともい十四時三〇分の汽車にて帰宅。外は昨日の紹介状を夕食し、迎りてのち保のいゆく。明日より一週間向津へゆくと。吉田氏へかき。（文部に一切出会ひしいま喜のいろいろあるとのこと、ハ、らし。和田、山本二氏を学校に伴れ来ると。仕事を渡部に任用すと、ハからし）。（寺島宗則の出ハ洲と並ぶ左文図書館（紹介すれと、本館を専一にて家しるる様なと。）

（二十八日）史伝よりて島之内（栗拾ひいゆく。吉田嬢より手紙、漸次弘部にもりゆく様なる。喜怒哀楽と。

堀田氏一女子まもいい様なと。

二十九日　朝小雨。出勤、カード挿入す。四中出来ると四中宮さまある。芝琴の父之会に来と、父さま三十四に結婚せと、明年は南大予科出の山本の妹、二階に住む。服丸く下ぶくれの二十一才の姫なり。石川氏近く退職と、鈴ろく才ろ青年なり。来月ハ山いい安西冬衛の本阪文会と。外はみなりつうしド外一冊迄出せと。

途次高橋君と足舞の鈴血すと安達隆之助氏、

三十日　午前中カード挿入、午後大掃除、すんでるいるの迄到会、「大和さまの校正まる。明の大根消ク、布の白（ゆえしし不明。

後来て尾西に帰るのを待って帰る。前日絶交するかも、
極一旦来る様子。
十月一日　カード挿入、ゲンキハ、言はひ、帰途酒井宅へ
いちゃ、外語の教授として若松豊四郎氏にて家を。ゆう
る嬢はゆへ嫁ぐこと。西田君来る。話すこと少し。父子ハ
かき、父子の話始。
十二日出勤、ひるまへ野月氏来るみかと二神曲に行こうと
ある、酒井氏と来会、文部、宮下氏来合し居酒屋とを管
理完へやすす境食より帰えさくる。時頃の上野常
物を買ず。和楽館にて酒井氏と宴、酒井氏宅へ
寄りし話くる、奥さん手帝を拾ってみれとみしと。二時過を
ひやうれて。
十三日朝食ーおへしてうと動久と土本堀の自和者を(七月
九日)
十四日、
十五日、
十六日、
十七日、
十八日、
十九日、
二十日、
二十一日、
二十二日、
二十三日、
二十四日、
二十五日、
二十六日、
二十七日、
二十八日、
二十九日、
三十日、
十月一日、
二日、
三日、
四日、
五日、
六日、
七日、
八日、
九日、
十日、
十一日、
十二日、
十三日、
十四日、
十五日、
十六日、
十七日、
十八日、
十九日、
二十日、
二十一日、
二十二日、
二十三日、
二十四日、
二十五日、
二十六日、
二十七日、
二十八日、
二十九日、
三十日、

十月
十一日　出勤前八木家へ寄ってゆく、書庫の書棚入れるとて
来られし仕事、酒井先生と郎和いやを、中村君行君と話
して帰る。石川和記、坂田民一郎のや。中へ寄ってこの
の辞典をうつしてねる。不。
十二日　昨日より停電継続、喜多中学校（昨夜ゆく）、九
早朝、別の清ないて元ゆかぬ八木家へ待ち、九、五〇着の
神戸発一〇一ゆき、書店名今の如き客を寄る。中村氏助
と立入って、石井先生の話を聞く情を知つ校、実行
委員を大きくする事に中間を都いて会と。会員名定ゆ
を基のみしのみにて退去、十、二八の電車にて帰る。不快、
吉田君より手紙。
十三日　出勤、疲れてねねりせしより、野井女史不快、吉田君へハガキ、
拝見をみて帰る。早く寝る。
十四日　出勤、書を書庫の整理とて寄ふとスケリーとなる。一三、三〇。
「ラ芋パーティ」、おいでいやうと。松室多くとる。
十五日　出勤、鈴木氏いろいろ柿、芋食べて話す。午前中、吉野氏の
所へ東亜文化の振興正宮君まり、中村君の妻は、明和十
七年の話を出、事務のこと話せし、帰らんとせしいる上の深夜にて寄
拝るの日迄ゆきていつもの清事。
十六日　西出勤、午後出帰陸、二時と書庫、女い学生れる男と
ラ。終りて八木君い清水氏ゆく、長谷松い主事れ
毛利勝一氏来る、柿食はせる。松田氏で三陶住田と
茶会ゆく、午前拝ゆく来ること、中西理事宮崎図書館長
となりと、大学生に話して清ゆるようと、先約定の晩餐
に中村しが行かず、別るゆ柿食べるから「ラの上」は中村
の句なりしか。「大丸まで」の接ぎとせられ、結和明後日と初て
として帰る。夜半より雨の音しつつ二〇〇の書く。
十七日（神宮祭）八木君来る。昨夜眠れなかったし、秋空の鳥を
祈れへみうみゆく、昼飯は弟を、俺の冬着作りく
ル、一五、五〇清なんて帰る。東えしゆりん入浴。夜後の三
郎来り清ゆきてゆく、保明り特撮さす、保の「ハイネ」を世話すく
した。
十八日　いやく出発、保田家へ松野氏の所のとこ教ゆ、
気がのらず山田迄歩き星行、山宮神陵に参拝、丹波市へ
一〇、〇〇すぎ着、新米、鉛筆の創を記念講演をみる。
柿食ひ里食すさし頃、江上波夫氏現る。西下の人名を
情ゆえ色変るのて、山崎ゆとこ、ゆ、一六、〇〇着
「結山つ」を「大和文華の結社」の金もらえ吉岡君とアパートに
ゆき明和家で夕食、芋ず上洛を中村君行君と約し二一、〇〇
ごろ帰宅。杉森久英氏より「文芸」「月号」の話を月末までいと。
十九日（土）八、〇〇ごろ起、朱四ゆ、二、〇〇ごろ和歌、下
駅ゆけば父母来る、祖母宮子来、岡山の事知父母世話
始式ゆとこと、祖母ゆうんゆ帰り、ゆうえにゆき吉川
学校の事情と和田博士の講演をく、天津ゆとこと訃報
やうしゆりオの追悼をう、義叔の事思いこと、伝蔵
出ること許す、今西君私より古城久治ゆん便りしと。

外山氏より「中国まで入内を願ひたしよ」(九〇)(「聞いて柳田化学」)

三。「首藤が紀」(一〇)羽田と出、雪深、家いやく、雨降り出す、立ちそ

とふ入(一往)る、夕食し泊りしより下伯方に行かんか、大雨降り来、社母

吐泻。

十月三十日。大ととし出、一〇〇揚井着、毎日、雨、夕方より止む。

二十一日。出発、伝すもせず、吉田嬢より手紙、八木君と手

紙交換せしと思ふと。八かき書く。「蠶耕錄欽濟」

二十二。出発、弥と伝すもせず、給料受ひ(三二〇十六〇)

龍伸達(一三〇)、久八(三五)より大吉同志会に出、瀧井氏

と帰る(会費二〇)。北平に寄し中野氏より八かき。

(中野月光。山元伝祐氏より「最」明陽丸と。)

二十三。出発、弥と伝すもせず、給料受ひ(三二〇十六〇)。

高橋君に書を落ちて、柿もらる。

二十四。出発、高橋氏と節、午後蕎堀り、吉田氏より手紙。

家松氏に中山公園のことを云ふ。

二十五。出発、知の吉田氏の宴に招待せらる。八木氏の紹介にて伊佐安寿

郎のもとより、三〇柿手に入せず、多く引抜かれたりて柿手入て、

いつもの流を流る。夜を以て三島一氏の紹介にて「蒲東時代

の詩人」三号校三三月まで。

二十六日(日)天祝の紅葉、はいり人を出節とをしこと石清

しとうち水えるやうに、来国君まりうちに、その後無事。

二十七日。小り参拝をしと。[redacted]未刊」第一冊もらる、[redacted]印

校正と。村田三平三印へ八かき。曙書の相談。山西。明日休

みと思ふの外方。[redacted]。

十月二十八。晴。朝「さんちゃのみか」を「文芸」に送る。音と

社へ「唐宋の詩人」借の返事。三氏へ礼状、一三〇の

流を流て出人とし中名君に会(ば五〇)。七八五日の煙草飲

らる、取り中ば一時間ほど、侯は家へ中を外るんと多くつ

抜し、云ひ中ゆきをうしなく、帰らんとすれば三村君来

る、柿豆腐とれに喜ぶ、船で家へ中を帰抜して

帰る(十月一日より上り七三、下り四一六、一七六の指示)

船者にて法日蔵「古代の文法」借りてよむ。

二十九。出発、十一月一日流を四国を、八木氏より弱風にて

すぐ帰る。夜のいかへ出かけ、三〇宅へ立ち寄て清書やく

山内四中氏へ八かき、家でのせて。[redacted]

三十。出発、[redacted]高橋君の十三時の

手伝ふ。山内へ返事。桜井氏で侯に会ふ、一杯の帰りしと。

八イネのことを。

三十一。出発、[redacted]。[redacted]帰り久しぶりに入浴。来国

君来て大松屋。

十一月一日。[redacted]流を四国を七三。[redacted]。明日出発の

こと。八木氏出発、高橋君の手伝い、祝と苦心なる。

二日(月)曙書出発とて、来客で宴に休む、来国君来

り「世界」借りしと。石田玲子みオリーブを振抜いてく

お宮掃きと。午後同で和子嬉まる。勤えいやうと。

三日。明治節、在家無為。午後保田にゆき山掃きゆきて

十一月四日　出勤、多忙やる、略日来り長江上海と郵便物
来るのを待む。酒井氏を来らん伺候二十日足らずで復職せと、
電信社（電報社）より酒井氏に、郵便物受領十五日ならば都合
なると。

五日　午後書籍、小中高等学校と組合の事務。
酒井氏を来らんを信ず。すみて八木家にゆき夏至祭
たのし。京橋家にゆき烟草やり。寺尾にて同日「民族学」
（三五）平野「民族及宗教」（三〇）買う。夕食一三〇円。
らんし、ゆら遠足にて見に信長山、妹は柳ヶ瀬長岳寺
（ゆうし）、去日農より手紙、八木嬢見えにて来る。
言橋書籍部、中村君と会談、故参ゆえ。帰宅、鈴
木氏にゆき一五〇円（酒井氏のことをたのし）帰りて
書籍整理。

六日　酒井氏来らんし、八木山中二嬢と正倉院見に行くとせし
来るのらし。午後柳ヶ瀬に行き水に泳ぐ。丹波屋にて
出でて京橋に寄り二嬢を八時出発、五人にて
ゆえ京橋家の豊かにて、多国のうえしにて食事入場、ゆ
ーらんらら、ピアノ、弾き、俳句、ゆえ泳ぎ面白かりし、つつ
ぬき（五人で一二五）三時出発。（一〇〇）大仏殿に入る、京橋
君と別れ書籍、参り入れ夕刻、一五、五〇の汽車にて帰る。見
物し。

八日　図書終りの日、鈴木氏にて酒井氏の話来る。服部
書来て陶器ちと三十日の所にてつかはしと、京橋君の

二の十五十五耕作生徒二人と白色書籍。山中八木嬢
に代りてもらい、とにかくて長谷川氏、中島の話せん諾と
世書書外四冊八冊もらえ帰る（二の十三石浜氏一五〇
せよと）。伊四郎氏明日信州にゆく、八木のこと話せん
ーと。

九日（日）大津陸市勤とうとうにおでしたる七時の汽車にて来る
清水氏を訪ね「ビヤーニュ」やり、坂の人名を訪ん「楊志死」を
てもらい九時の汽車にて帰陸アみ、新会を食べ食
食、十時帰来りて氏と夫人を去りて坂身自転車、帰宅
京橋君とともに二人ストとにて帰る。夜教授。
職業の要求通り来週二杯農業体験。

十日　七時の汽車にて出張市、鈴木氏に来二ヶ月ちゆえ、八木家（中
き京橋君の別（ゆく）、接拶と午後接拶、帰宅宮ふの
家前にて酒井氏に会う。伊四郎のことをたのし。ひるに昼食
（ゆえ夕食、話所に泊らし）各者寝て眠れず。

十一日　朝八木家にて、京橋君と別れ（陸、大垣、名古屋、紀
州ちて帰る。また午後九時。帰れば（妻女子供も、都合
ぶ水浴二日ならんと。（長谷川氏より十五の会のこと百姓
会に出（ゆくことを）

十二日　九時の汽車にて出張市に来
山崎とカストレとみ書食芋粥
終りて図書館にゆく、山中氏かわし
酒井氏を来られ再婚のこと、奈良の書房の奥田氏来

る。二十四日、一度帰宅せんとの事なれども、長谷川氏の来訪あり、止りて
十五日五十分にて横浜いらせゆえ出人に長谷川氏に振向るへの伝言ありたり。帰宅
十六日 長谷川氏と大の出張、上方の視察、出発（ゆき 新田三郎）
印を済ませし一日半北海道へ孫と、梅田の地下鉄にて同行を
訪ねしに不在にて、ぜひ一中を会談中とて行かれん一三〇やっと会
いとの事、電話、雲英、長谷川中人と見（ど五百円）なる。正月
橋井（来ん）。地下鉄へのり十二時ごろ伺ひ出る。石塚邸を内
（此神は之を）ぶりの医治をしと。三十分ほどして辞去、汽車にて
の帰宅を内（此変まで中条の原稿）伝へへ送りしと。帰宅
二〇時。海駅まで見送りたる。
十四日 家事、煙草配給、夜来の家（中条、伝田家へ中、
伝田家に帰宅）和田下りの つもり 板草し来る、父君と話
して帰る。けふ「東亜の胸九の修羅」書てつゞめ。
十五日 九〇〇〇洗濯、午後、内山来る。電話にてゆく、長谷川の近中と
「結局ならざる」三百円辞退と云と。父の家にて重食、河原田大
私金いたす。一日〇〇〇ならず用金、白鳥氏年人情去、東井情去、神田
氏来（昨、長谷、去私後来、長谷通蔵来）二〇〇〇おくれてお
越し、長谷橋にて上村さんに、館にて寄れ中村の外に新井氏
大始まりに来れる山口氏、長谷、白鳥氏、中村氏を送る。移書
井無事。伊藤の門、杉浦と云、帰田又老いて中島氏
先、下松にて不帰宅を詫める。
十六日（日） 杉浦と家を出、帰に家一中を迎ひ、帰宅 和田
を訪ねしに迷惑して以ひ早くも出発せし旨の許（来ると）
と、東方史論叢の事を長谷川氏に云ひたりしと。不在、二時
出、古川ちゞみて代を紙屋（中村倉社）を訪ね、大学より
帰宅。和田に迷惑する義務と
十七日 出勤、研究室（一切急いしい）欲名近日中いかがとその後
許にて二〇〇宅勤務、竜井、来吉藤松ながら、青年江
原稿用紙来る。二十分早引して帰る。杉浦より服部に泊
りしと。
十八日 白鳥氏来ない仰せ付けて、紫田中潤吉二人来れりや事、
薄れ（原稿を井手口出えと山下情にたのむ。服部来る。過館
先生は鎌倉来て不機嫌なり。吉田氏へ手紙、宮崎君にも
葉書。
十九日 賀餅、到来、整理大分すむ、書、畑に鍬を入れ、二十
人おの手伝ひ、柳野出張、てしに去、長谷川氏、のる。
「帰宅と出発」を「出発日」まで。和田氏迷惑 二十五来
た。
二十日 登校、杉浦帰る、汽車にて帰れ 十中 塩と八木家
へ寄る。ほ 十三、十五両日の報酬（三〇〇）もらう。
二十一日 星期 ひるの食卓、酒井先生、九師戦争を迎ん
来らる、まて野の神の子孫 神田氏との医治にまる。つれと
来られて。吉田氏、服田氏一人ぶらり。伊藤 [illegible] 書庫に
第、玉葉 [illegible]（一〇〇〇二〇日）。

三十日　久勤、はゞか雨、ハイネ清書、久子へかき、
世んせくるとゆをゆゑ性ゆゑ法かたしく吾ゑいゆれは傳へし
三十一日（日）山崎君来り林くん、ことかース法ゑ法よみ終る、婚君正午
来り結婚と湖南、和田ゑもゝ来りしことゆゑ、ゆゑ久
くゑの主ゑなり、ハイネ清書し終る、不満ゆゑ、たゝ才ゑし
明日、屋敷注ゆ、解説書を法ゑん。
二十四日　出勤の途鈴木氏に寄る、芳山氏玉菊面始め、年末
豊の報告会のゑ、三豊を脱社来る、金は月末わたゝんと、帰り
玉菊松ゑ、八木嬢と話す、厚ゑゑれゑ手紙、印税一割二分
と、一興ゆゑ久ゑゆゑ、改し。
二十五日　出勤、事なし。ハイネ法つけ終る。一興新文（八かキ、
二十六日　出勤、山中嬢かばやし、八木嬢ゑゝしと思ひゑゑ、宮橋君帰
君胃痛ゑて医ゑゆゑ松せと、（鈴木氏（寄ゑ中）、豊報ゑ
会の報ゑゑ書く外仕事ゆ、帰りてハイネゑゑ、ゑゑゑ松、七番
いて書く
ウメザオ
二十七日　出勤、はゝゑゑ（中ゑ三興へゆゆ報新ゑゑ法ゑゑ、不快、
ゑゑ（中ゑ仕義ゑゑと話し、雪ゑいゆ、秋田君、田村君士
と話し、四ゆゑ長紙ゑゑ吉岡君も来る、ゆゑゑ（
ゆく中ゑゑ入内）の祝賀会ゑゑ、田村君ゑ地震ゑゑ
ゑ論ゆ伝達ゑゑゑゑ。松南、博多久吉ゑ受取ゑ、
石法ゑゑ四迎石地会倫ゑの伝報状ゑ来る。ゆゑ流産。
二十八日　出勤、塗印すみゑゑ、文化会ゑゑ聯の法ゑ面
ゆゑゑし。

二十九日　出勤、南側の部屋に代る、八木嬢を住して玉菊二百ゑ
（三〇）松ゑ、同家にゆゑゑ嘆、蓋伝れゑゆゑ聊奇ゑ異」のゑ座
ゑゑゑ、一月末もゑゑゑ。キーン。「吳船録」ゑゑ、長ゑゑ
また買ゑ。
三十ゑ（日）松ゑ海ゑ、ゑゑ久し堀ゑ入法ゑゑ。ゑゑ社ゑ竟
井来ゑゑゑゑ
十二月一日　出勤ゑゑゑ流ゑゑゑゑ電ゑゑゑゑ、久勤ゑゑ、ゑゑ
八木嬢ゑ、如のゑ、松ゑゑゑゑ山崎ゑゑゑ、三興ゑゑゑゑゑゑ
ゑ如ゑゑゑゑ法ゑゑゑゑゑゑゑゑ（ゑゑ、ゑゑゑゑゑゑ
約書ゑゑ押し、愛ゑゑ後ゑゑ、宮橋ゑゑゑゑゑゑゑゑ
不在、長紙法ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ
ゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑゑ

ひ「博捜」し古同を訪ねの色いわる（古村正一郎と和子同人ことやらしと言）。夕食後服部と会い、古同君宅へ会えとして出かけし。

としいち、表出れいろ（〇〇〇出勤、午後山中嬢と玉置拙宅へ来る、之を落く、とし帰りの路へ行くと上田君不在、油山へ、丹波市へ帰り宮橋君午後、ハイネ「名物陸」買い（三〇）帰る。接伴紙を取出し、夜出かけ中ます。

ケし、不二十一月ヶ来る。

七日（日）服部と拙宅へ誘ひて紹介せ、夕食せしも来ず。服部の新宅いわゆる素食、新来三郎会え、一位より使ふ二百二十五円にて家を買ふ五千と。伝説いま父兄に会うべしとして来る、そうはせりしは我家、早稲田出て五年。桃谷を使て破屋の下宿いま「庚申堂」上ゆ帰る。昔一度知子へ、千恵ちゃし、一九〇〇帰宅。

「」出勤、表紙ゆ「もと」色ケ、三好、伊東ん便」とれ、典義学会のこと

ハ」出勤、表紙ゆ「もと」色ケ、三好、伊東ん便」とれ、典義学会のこと

いて明日京都を流を会じらる。服部「このつづいつ流」と云ふ議論

けくる（三〇）南部氏ゆ大徒氏来ひ紹ろしと。ま長く出名去人来

り公報をとと、五月イ知山地ひ殺死と。時記「寺名を花八郎

宿来ろ、てばこ六さん才ち。父ろ小ゆ。帰宅後四ん寝る。ゆ

雑電池流ゆ。

九日（月）出勤、七時のこまて丹波市、十時頃三方（ゆもん）

仕事て和田ん、白和地を会して東方お論書のことを、帰路又

古市もしん不在、左方の代（ゆ金）、日ゆ和代蔵（一五）寝ろ、神田氏

と云会ん、中山節長ゆ所在ばを聞せと。明日来丹のつもりとと

言ひ、外山不在、帰日午来再び訪ゆ、ゆきまを去り弁当会ひが

む所て喫茶、聞いて「高通ゆ冬子（五）」「庚辰代行送（三）」

「海湖を再版（四〇）」買て、和田に行く、三月インフル要化と。接

物を早く出よと。四時頃出て帰宅、雨となる。吉田君ゆ来ない。

十日 雨、出勤、昨ゆ報告ず、神田氏書を（来ない、重後

秋の右頃ゆ敏君と相談、ゆ五とを来。八木君ゆ「海湖

書」地ゆ。一七、二の流車ゆて帰宅。

十一日 病ゆて休勤、冬の会ゆく、一日臥床。

十二日 出勤、職を会ゆ、饒名（の要求来頃きゆ）面ゆ

し。一七、二の流車とゆ歓餐（三〇）。父、中野芸破もんゆ。

十三日 出勤、昨ゆ「クリストのタイプ」打つ、服部と相談ゆ（ゆて

中島の通知書ゆくせ八ゆ、公報「五月二十七日ゆ十九州

イ来ゆて服部砲弾破ゆ創ゆて殺死」と。夕食ゆ、ゆを帰ゆ

流車ゆ伝ゆ。父ゆ八ゆ。

十四日（日）父来ゆ、寒し、終日臥床、無為（鈴木治氏ゆ話ゆ、

十五日 出勤、昨ゆ「年末の司書」を出ゆて、タイプとゆ

付け、ゆみて古橋氏ゆ夕食ゆ和定ゆて帰る。来書ゆ

ゆて金ゆ不帰ゆ芸橋氏ゆ、上ゆ、芸橋、自ゆ書ゆ

ゆ手紙。「流ゆ」「酸明平治」買ゆ（一五）

十六日 出勤、司書室勤務、午後雨、来ゆ「ゆ包」来ゆ。「繻

宴」ゆ。

十七日 ふへ雪、三瑞ゆ「ゆくし」出勤、帰り一七、二の流ゆ「ゆ

嬢」ゆ会ゆ「ゆ郎湖」（三〇）買て帰る。

十八日 睡眠不足ゆて（同盟年位「ゆしゆ」）運動、流ゆて同

[illegible]嬢に会ひし話あり。三輪の岩田君宅のこと、(やくに会
わ)。遅く帰り「伊藤大概記(三〇)」買ひ焼き置き拝read、
加茂儀一「家訓」read。芳野、会いへんかや。
十九。出勤す(節太郎に写真頼まる)。出勤
してしばらく会社、東京早と一万円住もらへるらし、誠君の
はは二ヶ月まいて、九ヶ月一ヶ月分ほどと、立都出張を
命ぜられて神田まで(中、義松会)(ほ世界文庫
紹介)。北浦やらんと。入谷氏の要用にて神田までのお
見(何と一万円を送ず。帰り新宿をあるき渋谷「見学の
る用」言樹「北方領土法概説(一八)」「ケ人」中口便景
の[illegible]「在朝鮮[illegible]」買ひ置き、四條一丸橋
一新日記一冊ほか一小木、帰宅二一〇〇。郵便にて
寝ぬらし。
廿日 出勤 大掃除すみて一三〇〇より忘年会、酒のみて
寝てく伝しおしたす芸をしを出生、言樹君の芸なし
ける。風もなし。
廿一 言樹君にて朝食、中安主任氏を見舞ひしに家外元気
言樹君図書館(中ちゃんも無しと、ちゃんを給仕
にちに聞くと知る。)。話を来る工夫者に以日の言葉の
ふ毎年ケ月、ち時ちゃん会を近き一ヶ月分出るとて、八
木ちゃんを、うちんたく、おしたち仲紙書いすとをよ、電
をかって一四・三の帰宅。途中文に会ひ、今年住宅の新文ネ
況年日のすんと、保田家へ寄ひ文の出発をし、花吉。

「[illegible]」買く。[illegible]
廿二 休暇、一日床にち。任田の新宿と海南あり家城
見立す。
廿三、七三〇出発、保田に中を父に[illegible]ちを園のまき、保田
ち養徳社(の注文を、大〇〇の注車、養徳社鈴木氏を紹
て図書館、八木芳子氏に新一首うれしてくいしるうもあ
てやちんえまみてのかをしきいまは、豊氏を後ちてロ和伝
へるを氏に(の手紙渡し、服部にもしも不在、中村氏
弟七子花、言樹氏も不在、[illegible]を訪みちんせべつ路ち
方ってはのれし氏、大和文学」とし保田氏の話を引く。
廿四、注ないあ電文ちゃを、養徳社伝り、言樹君訪鈴
木氏、登館すれば中村老人出ちと、おしたス二三〇もらして
帰みいゆく、明日芳式の予定、鈴木氏又来て帰る。
廿五、中村おみす、老人芳[illegible]ちを[illegible]伝、昔氏五〇〇日の会寒、
寒五一〇〇にて中氏と同じ、式まへ中ちのまってお母ちでんにち
おい泊[illegible]す、一六〇〇帰宅、父、前田純ねすて。
廿六 九〇〇注ないちを服部で書会、中村氏を氏ち海文
区部、図書館にちを一九五〇ちを、菊芳橋り二ちを会ひ、
十島祐馬「古代の和歌」(七〇)柳「[illegible]」買ひ、電文
いへ八木、嬢書ないて「[illegible]」(三五)」石に「ゆえ字典
(三〇)」買ひ「神宮」ちを[illegible]ちて帰る、三ちを達ちを[illegible]
キ、七二〇出発ちまって林、大[illegible]ちを。
廿七。なし晴し、午後七〇〇を訪ねし留守、保田も留守。

十月廿八日、家内、未掃てしめて二合搗く。十二ヶ月出し吉田
石の手紙着く。
廿九日、家内、雲晴る。中野啓之、神田作之、藤田純
敬へ返信。
三十日、朝より餅搗、八木(中を笠井)ころころ返却、井上
節子嬢、揆子の村木同へ嫁ぐと。吉田石出て哀れ
嬢書房へ寄りしと。石浦氏のも(五〇)買ふ。
「神風」読みしと。米国書籍帰業する。餅、教会の人と搗き
ぬる。和田氏へ手紙。
三十一日、午後、西宮へ、新年とりに行き、やまのこし(百匁二〇)柿(百匁
一三×三)買ふ。大掃除す、妻よ多良ゆきの文度す、教会
へお歳暮。

昭和二十三年

一月一日、二日共に起きて焼酎と餅、雑煮、九時半頃から出
寝そべりしまゝ暮れ、教会餅を食ひ五三〇人多良
ゆく、教会の元旦会食を隣の家にて、午後会長(接
拶)の後、保田(中を文男)と保田と接拶。伊藤を訪て年
賀状。
二日、一〇〇〇図書館の柴田生来る、やはり古本一ヶ月。午後服部、
吉岡武氏と来訪、保田(中を一八三)退去。胃ゆるし。
三日、文芸の特報(五〇〇―七五)来る。家内。もち麦混食。
四日、誰も来ず。午後出、坂井元男へ中を、来田清治を訪
ねて浦安さて合せ一五、二九の浦安にて丹波市、服部へかけ酒
井氏と会ふ。先年下宿の未亡人と妻子、吉岡男のところへ
中ケ出、未人帰りあり。双方へ夕食中馳走になる。服部へ泊
る。物語はいろいろ、話しをきかる。
五日、八〇〇の浦安にて帰宅、妻子明り帰りしと。大教会の教師の
新年宴会、修養科生なる秋絵へ正倫ちゃん正月早々
の内逝るらずと主治医、吉田嬢より手紙
六日、午後肥下来る。こしへ保田へ中をと話へ中をと伺ふ、帰り
て酒二合搗舞ふ。市田嬢へ八木。
七日、無休、耶蘇教会へ中。
八日、七〇〇の浦安へ中ゆき、八木嬢へ会ふ。日直、すること
俸給十三日支給と宣伝、中村氏行き、台湾文学の新
聞ふるふまる、八木嬢へ会ふて一五〇〇出、義信社

へ出、三枚と七和之ものもう、中島のトんスト イ倫敦。ま
ぶい伊太の「反乱」と「ほ[illegible]研究」一〇ノ一来りもり、家
に泥ぬる事多し。
八日 入浴せしのち、泥ぬりかき
十日 毎日大雪。「古屋」にて。故浦へハがキ。
十一日(日) 神田行きを[illegible]送信、会井る(三見つ山てやく、来一
中と力至のて報まる。之ものよ姫姫して所婚せし娘子。
「司馬遷」(岡崎雄)「仏陀」「仏教社会史」「古代日本
倍」買よ。七一五。
十二日 朝出勤、山中嬢と中て、佐藤氏「清朝社会史」「福
武也」「中国村落の社会生活」買よ。午前中職員会、午後
環境、すべて脳和いを中心に高等教育と特殊、伊太静祝、
兵井年ぶかき、八日弘文堂来りし由。米田君夜来る
十三日 出勤、秋二首とらへんとれれとれまつ鳥わんとつ
れるくいて笑きをとめ、新年家会、二月の時果
やるとるる。三郎文学部に二年ぶりる。と申出、指で
力年始を。イエス(二五)、「硬ぶる(五〇)」。伊太、ていに
いかき。七面氏の臨時入りて欲一〇。
十四日 眠くれ。八の法をいてやく、長絵社(中を「雨宮敦史」
とらん。屋賀、秋賀文学左分片附く、秋二首とみ山の
ひのおもとーまるまて女の方をおもはおせる。まずうものの
芝をたてとめてとうたかはてをおもはのうる。古。四おじよ(ハ
かき。「安芸」十二月ぶ買よ。

十五日 雪降。鈴木氏へ出ぶ茶のみて陸軍、五ヶ年計画ぶる
ものを取る。午後二四。日曜よ、帰途文学堂にて「聊斎志
異」「唐詩選」「支那劇曲史考」買よ(三三五)、叫弘法にて
金に五三に「茶」買よ。夕八二二〇(五〇)。和田氏ぶ来りかき、「女
方史論双会」の事承知する。
十六日 雪降り。家屋、新年会やめしぶる。(羽田)(ハがキ。
十七日 出勤、秋二首山のかの力を家にみるりかるおるすをるかを
[illegible]る秋をへさるみをを七二〇ーラと呼ばれしとに表られをじを返
山本るとにしをよをとのしへをの君とおしのをみしかをしを長谷部
職をの鈴を[illegible]の堅ぶ事秋代、つをうの。長絵社(中をと田辺るうを
駅目と、脳部に中を特殊して返る。「続々紀宣命」(一五五)。
十八日(日) 来ることの。
十九日 出勤、伝を誠来る。書、玉葱押へる。明治ぶん。出勤と、
鈴木氏い字ぶ力至分ぶ(五合七五)、大学ぶのまる。井上部ぶ嬢
来りまて受験日いを伊ぶ概説[illegible]ぶく、帰途来に家へ寄
り清治ぶへ女伊ぶ研究会参ぶる。
二十日 出勤、けの[illegible]ぶ九。南妙。ぶる風邪、
二十一日 出勤、伝本作業、典籍学会の相談、すべて後の法
をとるる長絵社による。ぶるをとる
二十二日 出勤、中村出行君、「弱北」の様正もちまる。「大和文
化」の会二十日十四日と。任ぶいるぶ、ぶい異く、校合病を
「ぶ手紙受紀ぶ図書館「弥弘」と、霞山公の文を
五百と力金正校の十二三ぶとを、月給四千日住と。

一月二十三日 寒稽古。午前九時の汽車、中宮寺経由法隆寺（しん）
あと十冊、八木嬢と話し、姉と、午後休ませず、四〇〇出て
西八条の電車にて立ち帰り、明日家へつくしは（九五〇）夕食ゆう
べ（すき）つくり、大谷をはじめ皆々ゆめ〜と、二二三にて寝る。
二十四日 七〇〇起き、九三〇弘文堂へゆく、秋葉氏来、松浦くみよ。
世界の変化はと。明日いよいよ十二月、豊田氏より博士の
ところへ参る、（のち）早く、すぐ断るとしるべきんと。昼寝
十七時。
二十五日（日）朝八時〇〇発、父に叱られて、一〇〇〇帰る、午後〇〇〇発「浦
賀」、吉田氏、吉田氏下、中口社会学研究、文部省方自に「展望」もち来る。
小説の一四三〇に津波に流れ、報会ばかり「正義と平和」書く。
二十六日 ロビ出勤、三枚原稿、八木氏来、父に
出ちゃいられと、午後山中君来る、西田君来る、山中君朝
の電車おそく一緒にゆけなかった。杉浦さんのお、ひとり出した
と。
二十七日 出勤の途、散歩して修理（三〇〇！）寒くて休ませず、午後
給料を正金代、中村君来る。ゆん八、五〇〇。吉岡君来る、三枚
童話に合うゆんめと。帰り二女と吉塔ゆん参る。
二十八日 朝 老婦唯花、茶流して叩き出血せしに驚き、多勢の
家法く、出血後気弱するいやなく久三みせ中出出した。
小説二外出し妻会して大谷へゆく、食事中に伊藤
切れに来る子生まれと、父母五高校の口を秋葉、大喜氏

来訪、マライ語の帰り講演をしと。来日独逸、出
版を若くなると、今中後出発、講演をくゆく、夕食
ゆく、三〇〇もって帰り、伊藤宅訪の件をつゆ中家中
しと、原田家主の不知と、面白し。出版相和と。
二十九日 朝吉岡君ゆく中間をしに三枚氏から書簡
と、文部へとしんなんとそれを止め、義伝れ「学芸」
吉塔義、「学芸」正月号買って図書館中宮八木君休
廿二日、やしてに電話三枚氏来る、吉岡君と報告いとしに義
伝れ中を、清之篤氏（外語教授、清の弟、三枚氏同級）と
石上神宮に参拝、図書館にて寄贈、三枚氏に応接
氏、田中氏の話自無伝とのこと。
三十日 出勤、給与文部省、一四〇〇を義伝れて大和文学の
会、来会せし三枚氏はすぐ退庁、伊藤、高野和正一部、鈴木
氏、文部省、中宮の緒と出。一七〇〇和泉橋中、中
山宅桂と森来義（文部省官吏）、森来氏の義氏
わかって間もなしと、飲み合いして鈴木氏に泊る。
三十一日 鈴木氏弁当作ってもらい出部、広瀬隆、すみて義
伝れ中、聊会長、大和神社と参拝、様で
八日迄、中宮の迄者、中宮本社と、三月頃菊隆氏と。
伝友の手紙を見、鈴もって保定。教会長老人と桂三
月六日来たしとの意伝よ。のちほど呼出し準備の為会
と教義を主任補とのその辞退と、脱会。
二月一日（日）雨、夕方伊藤家中、中山宅を呼べとのお

保田不在、父君呼ばれもて[illegible]と。豊橋やさいも整成。帰りて聊斎。

二時つる出勤、のちしてゆめみるごとく坐りぬし森[illegible]のそこはかとなく[illegible]。聊斎三五。松(ろろろ詩)

ことばしのとい秋。一五。。蓋強れいりかく酒井とそそ、

ひさんすし祝たれ兵の会請あり中、去郷氏一二時後にと、

かつかりす、高橋さるんやそ鈴木氏と話す。帰れば父、

松倉氏手より祝(一ろろろ。けの智恵ん手紙、六日

保田発(まるるらしと。

三日 出勤、此日の受験の半は脳既で是らし、田田冊整理、

志桂より電話保田へやくと。土産伊ん史、富ふつれ人のと。帰り

蓋強れへろ去郷氏より「五ろろ義」もらん金明日と、いく

らとたれ二〇〇〇と答か。けの知のろそへ手紙。保田へろ反ろん

俗の。解答はせてまる。

四日 出勤、田田冊整理、午後寒くて蓋強、蓋強れ一ゆ

き二千円ならん、まふ「池のそば」宮ふ「アビアの概説」買ふ。服部(中と

金代をとつれしん拒む。豊橋伊ん社せしに高橋君の外。

五日 出勤、去郷氏度はじむ。午後職員組合総会蓋強会、不快、

蓋強れへ寄る。「文芸」来る。ゆそる保田へ酒一升(七〇〇)しちゆ

きしと。

六日 午前中、休。金代の母君来訪、午後志桂より電話、三時

頃へ来る、一五、三〇としれん、三論の池田君を伴ん(一本)。保田着。

夕食、志桂来月弱婚と。二〇、三〇退去、田田ろいかもハ

新買い来ると。

七日 出勤、土曜とて服部ら方ゆくを約し、高橋君も来

会を使し、奈良(敬子)前に金井二をと同来ろしんと

おどろきし、早苗のかえのべんわのろをとめをくるを

見られてまして。一八〇〇ころ帰井、服部ゆき、伝授と

し高橋と同二君と話し、十二時すぎ寝る

(日)

八日 朝起られ一〇、〇〇ころ高井ん帰り、池田ろいかもハ田

松倉氏一万円の紹介状とし田豚再婚と来ゆ君来

和田の講義ゆきてとと、保田姪三千円来り水業始に

り史の頼りをる。和田来り、夕方久論業ゆ六七十

ろく書くべと。夕食ん人一八〇〇帰去、一十月以ばらん

て保護ゆく。

九日 出勤、寒し、四冊ほど整理し、豊とろ[illegible]君来訪、上まとの

をして早引しつれをて蓋強れゆく、「てれうんれ吉」ふへ、

聊斎百年の延名考へをいり、「古代の精神」「ちみのあ

ゆみ」買ろしろ。高井ん帰り夕食。吉田ろていかも、思り来

る。

十日 出勤、寒し、「和蘭の本三回翻訳」書のんとし、オキにどよ。明

日妻ゆ来母とて鈴木氏ん来る、蓋強れん来る、西田ん来。

十一日 紀元節、休。建日祭と名ゆしと、ゆ使ら式あ、雪

寒し、母代来へやゆ来。

十二日 出勤、不快、論文のみゆる、家ろ好きしちゆを研究をんゆ

てしろ。和田ろいかも、父ろいかも、夜来ゆる祝て法望ん来る、和

図（書記）不。平戸絵一、深井伍司へ返信。吉野へやるやう
五千円献金」文句ハ不入て帰つまる。いやな奴との縁切
りなれどもしかやし。
十三日、久動、元気なし、保ハへやく、豊橋へハ「ゑしらいや
けと、夜「清国南信」書き了ル。うまくやかう。
十四日、鈴木氏に寄るやく、昨日職業の申入れせしと（後ハ金井
君ハ聞居、受合ハ不しあと）ハ本氏と話し、アルムこちゃん信タ
イ「ハ」て赤ちゃのみたち、高橋ハい寄ハ服部氏。「聊斎志異」
「狐の婚姻」とその。服部ハやを信拝して帰る、吉田嬢ハ
かき。
十五日（日）史ハ留守を命じ、妻子と丹波ハやく、八木氏
駅ハ迄ハ、九鬼図書館ハ行ハ義校ハ「松甫」の校正まを
り、ハをを中、午後ハ出ハ、服部ハやく金、八木氏ハ金ハ
服部ハて校正をし続へ、妻ハ一泊車ハ乗て帰る。堀
内氏ハ手紙。夜「松甫」のあとかを書く、三五。字。
十六日 出勤、論ようやくやの、大掃除、一四。。すれ来て
絵ハ出ハて帰る。顔ハへハかき。
十七日 出勤、論えようと書く。ハの手書めし。正午、伝
藤誠氏夫人をつれて来る。三津ようしをはかしむ。
十八日 九。。の汽車、芸陶ハ中ハ出ハ来し田村宗遠博士の電報
之せ二十日上洛の旨ハ知らせ。八木君ハ廿二日合ハて図書
館の高橋氏ハ代りしと、をかし。中村君ハ書き了、論。夜
ハ木の法ハ迎ハと出ル。
二十日 出勤、伊しなり、芸陶ハ上田三郎成君ハ「聊斎志異」
挿絵ハ木人。「反対ナ、井山ハ嬢書、五通を国ハのみを、
帰木ハ木ハ書面ハ中ハ意知ハ書ハ苗井ハ、経済的基
礎をくつや変ハ。
二十一日 九。。の汽車ハて丹波ハ、吉田ハ三ハ郎、芸四事務氏と同車
四村博士、和田、外山外二氏と「方ハ論ハ」の編輯会、中村君ハの
宿ハ入る。芸海のハかきハ、受ハを「ハらん」と云。一九二〇帰
宅、「不二正月」四号三号（絶刊号）「ハ」の猫柳三四。
二十二日 出勤、雨となる。「身体平林」話ハ、宮田氏ハ「無国婚」
ハ手紙ハて来る。八木君ハ合ハし出ハ来ハ。靴下
やかれし大阪工業学校と。帰り雨ハやしく、鈴木氏ハ会ハ千俗ハ
ます下ハて「ハを」「女浮世絵」「地球と古代ハ化」「ハ」史ハ学井
ハ中ハ重一部ハ中ハ一九。。ハ帰る。大ハ来ハを。
二十三日（土）午前ハ家ハ出、保ハ女子ハ受入行やしとハ。八ハ入て
図書館、三日史ハ信ハし鈴木氏ハ出ハ来ハ、的ハ睡眠ハを
のためハ家ハ、一七。。の汽車ハ行ハ入ハ八木ハ来ハ、三輪ハて同車、
わうしハ行ハて、来ハて「ハ」ハ来ハ。帰ハ妻子曲馬ハ来ハ
しハ。けハ下ハ三日ハ松鈴木君、角の宿ハ我、弘文堂、松ハ来ハ
ハかき。
二十四日 寒し久動、ハ「ハ」会ハして中秋婚ハし。独来ハ
独ハ「ハ」来ハ上ハ。
二十四日 汽車ハ木電ハ中ハ、西ハ来ハて下ハ、九。二〇出帰着、ハ
し、山崎ハ来ハ出ハ、服部ハ中ハ人ハ来ハ中ハ帰る。

二月
二十三日 出勤、三十冊ほどやり、帰りに吉君と教育、服部つゆを訪ねる。
吉岡君来り「なぜ方々倫理」いろいろ ヴァリエーションを唱えたり
みんゆくと、中村孝吉君のはいろへ出て。
二十四日 一〇〇〇 服部をゆく、午落を出るなり。色節多し、ば
めを書けく。八木嬢に三人弱山中嬢と頂ける。故うどん一人女
(四〇×10)もって帰る。夕方風。けの身体弱なるべし、やり不
しゃ。夜来西方の若松来訪、話面白し。
二十七日 出勤、三十冊以上整理、鈴を帰って土産をくばる。珍し。
校友会委員。四くれる、おるへ女信す(ルーテル信)。塩田君(ハ
ガキ)。
二十八日 茶を緑報職員もストに入るい付、給与決定の投票。
楚九不。三、山崎やうし。午後教社の葬いゆく、広陵墓をまわ
ら、人事部の足の葬い語る。操ないゆき中村の葬儀のまえ
わ、三月十日ごとに伝きまる。吉田嬢より手紙、十五日二月より
「思考の記」書かを雨降る「学とる」「ユメ元年度日記」完了。
二十九日(日) 家見、文来り豊橋やめとる(ば反対せず)。夜
入浴。
三月一日 なぜ出来とし、午後工場陳、帰り二嬢ともんし八木嬢より茶
菓子をもらう。ゼネストいと記を加せずと、可能。十四歳出より
復業付せて、家見ゆくを稽倍信。
三日 出勤、二十六中上帰文学のリスト作り、上月中七冊と。酒井先来られ給仕の
急性不しと、「ホンヤ」のようやれと。喜信此(喜)「大知の学」

の相談多し。中島の葬儀に行くべ十枚の要旨書き上げ
は服部来る、月曜し夕食出発をとる。母上より再婚先の伊
勢みず性多。帰日つつ記。学生報とヒューマニズム」みれよ
り三月二十日までいい一冊、服部来る。正午ハガキ。
三月三日 出勤、如一主、八木嬢、志を受る、帰途鈴木女(宮)来る。馬淵
な一女来る。国正故女ヤス国信ふて信州住と。
四日 九時の汽なって喜信社、左帰女来る、十一時発館、半日清
汽ふい知せ「おりえの人間」借りてやる。一五〇〇出て喜信社中を
酒井先のオンデしいつを聞き、聊斎の結婚月曜日。服
部いやを二〇〇借る。ゆきまも西宮先人より二〇〇借りしと。夕八〇配
給。残金いて百姓米を買り出し左五一二〇。古は一三〇とろしと。
五日 出勤、午後伝来作業やより。明日は「王子アルア協会つレイ女部
報」なぜヤイのと文部報」一読るし「アルア・マヨール」。
六日 出勤、酒井先のの「ホンデし」一十九号、このころは楽しとして杉林世
つみをば「ホンデし」をめば、酒井先をいやを文部省し、喜信社
いを少し出来をし(やをけを授をして先日月曜一もらの)。
七日(日) 朝使いゆく、酒代五〇〇円まをとせし、定額として西宮先人
ちの(し、書一冊、小説代一来る、十七年振る、スコトうんのと。弘
文堂細山陵司君より「なぜ」二冊、夜来田君
八日 本を酒井先のところへ返し、飲(中谷中谷先生)、家庭やらく
ると、風呂の返礼をせずと也、四〇〇喜信社へ行けば金度しまうし
と。吉岡君の弟旋ってやって二千円貸す、三好左近治氏来るとのこと
ん結ることなど来て。

三月九日　出勤、午後共同畑仕事、いやなり。すべて玉葱、山中嬢と施肥、服部（ケイ）母君来りて夜と帰る。「岩波」古来、弘文堂細川氏来、茎を改ると「至深の研精神を」。

十日　出勤、三宅氏来訪、「イネ陸稲栽培」（三〇）分けてもらふ、出書者「カーリダーサ、カーラスートラ」「大同石佛寺の研究」買ひ、新年五十を二人にて買ひ、桜橋にて（九四）買ひ、九二四〇円。昼食。服部にて もしい不在、古。同氏も不在、帰りまたまたもしい服を（外語学校部文と）即山にて集めしい服部来。

十一日　出勤、午後共同石炭、三宅氏会ひたること。即山、田海氏いやな話不、来所（移住と、一八〇〇坪得る。この時まで作業はじまる。

十二日　出勤、三宅氏の竹藪内（の区）者義移転作業

十三日　出勤、雨、はれまいと紙れいを「嬢の行方」もと四中学校は松井君上野君と同様強行すること、家外、はるための木の間いまてもの いひしをとめ[illegible]られ老いのかなしし

十四日（日）九〇〇のこと[illegible]操来、婦四、服下、好井、伊藤、服部、[illegible]。[illegible]しとの宴を成す、一六〇〇服下ら[illegible]、服部[illegible]

十五日　出勤、事[illegible]。[illegible]と私[illegible]出版契約、急いつらず。

三月十六、高橋氏いまうこと[illegible]。午後[illegible]掃除、三[illegible]社来る、ハイネ、校正は五月頃と。帰宅言[illegible]。

三月十七、雨、鈴木氏いまう紅茶[illegible]。来り談笑[illegible]。午後三[illegible]の同事[illegible]。四月末と。同社書[illegible]。[illegible]。[illegible]。

十八日　出勤、来[illegible]、支那語科[illegible]一人来る。古田氏、弘文堂へ[illegible]。母[illegible]。[illegible]。

十九日　出勤、春めく、給料二六〇〇（税込三一〇〇）、帰宅「大和の[illegible]（四〇）」「[illegible]の[illegible]（一五）」「支那語外語教[illegible]（一五）」買ひ。神[illegible]、鬼[illegible]。

二十日　土曜、出勤、山中嬢と[illegible]「大反家[illegible]」[illegible]買ひ、鈴木氏いまう紅茶[illegible]。山中嬢山[illegible]再[illegible]。[illegible]。[illegible]。

「おしやべり」二十枚とる。

三月二十三日　七、三〇の汽車にて奈良まで。往路三等、帰路二等。

く、同年生まれなるもなし。家郷へ着き弘文堂（中島）の細川君不在、明日再訪を約し、羽田にゆく、書籍食堂にて一七、〇〇下絵所、宮内「法華経」（三五）内田「ロシア民族の発達」（三〇）買う。

二十三日　小雨、大とおて今出川まで歩く、靴五〇〇を入れてうるり、屋を変にゆき伝記学三冊と蘇峰「神代」（三〇）買う。夕八〇買う、家方変にゆく、駒込明（ロシア語）より、三月末限り帰国と。也人弁当もち来る。三時の会合より、家まにては五反田の伝記誠のあと（入る）と、弘文堂へ電話せん来り、蘇峰とてんチニと伝ず。茶ねとおて茶を書斎（書「ロシア」）と「神学」と買う（十五円つゝ）。梅井君と今西錦司君とに豊島園で「近大陸」のつゝ「ス」と神宮の「テルル」に梅井。松沢病院痛みし、丹治市に電話一七、〇〇帰、山中嬢に会う、宮子中、堀内氏一来「二和文」と文部省、「民主」より速達

二十四日、曇、「おしやべり」終る、世古社「民主」に送る。絶筆式。伝記を良書とする。

夜、世古の屋敷の祝しちゆとしも受取る。保田一堂の圧搾しちゆて文石い地し、一五、三〇流れて丹治市高橋さんやを服部さんやし、反共会社として帰る、七同名にて夕食、二二、〇〇帰り服部と話して眠る。共産外二〇人と

二十五日　一〇、三〇朝食、図書館いやを「社東」の校正来る、二七。

夏。伝記を「女流文学」（アンアン概説）の書評を。

疲れて帰る。（時報にて雨降り「迷合」買う。）七時日比一家人が来る、碁石一切拾せしと。

三月二十六日　九時とて七、〇〇の汽車、校正やりしまま、伝記誠君来り話す。「帰途」（芸術社）を買う。無人。

九時ごろ「西方」会社へ行こうと、文明社の会議。

二十七日　朝、妻海と伝記へ返事、丹治市二十四日ストとて校正出来、汽車にて上田一班と会う、ちのよ保田ゆうしと、名名山中等氏も、保田来社にて不在、二十人の再会合と。美紀社にゆき補の校正やりて金出す（二十×一五〇＝一枚）、高橋さんにタバコ銘ケ図書館にて一本。出せる（時報にて芸術緑書買う）山中嬢八王寺と帰る。

ゆう服部と会う夕八〇銘ケ、二嬢と和色みしまみ館

十七日やはり不在、夕八〇銘ケ、八木にて望月。

媒書房「南方熊楠」アンケート「新構成」「べりてのの地」とて石井帰社二、三。

二十八日　家居、夕方銭湯にゆく、増子へ校正おくり、二十九日　吉田君来り書籍をとりしに保田にゆく、不在にて帰れば八木君来合せり、妻不在、一八、〇〇汽車まへに帰り来る。発熱す。七の三氏あての手紙出る来る。

三十日　臥床、「身体不自由」書く

三十一日、同、坂口氏宅まで、「ゆかり革命」終る、十三枚。

大夜来る、靴も来る（二〇〇〇円）

四日 大正午来る、「時報」蘭拾いしかゆき来る。三島「氏」いまだ手紙送る。二児始業式、中西先生退職と、桜咲く、しるこ食べ。

二日 雨、仏画の中修理えらへかや。蘭葉坊の伯母者来る。

三日 神武祭、母出かいやく、雨、蓄膿休み、教会、八木家いやて十三合ゑたく、鈴木氏いやて書一緒帰はる、郡山城址を登る、桜咲いて神武御陵参拝帰りて夕食後、三島の母を一を訪ね話をく。中て良心的ゑる。宮田氏夫君上の来訪と。けの木下いて加藤氏を「中口経済の開拓」と「帰化動物」貸す。

四日（日）日曜とて出勤、雨のため高橋君ゑ[illegible]午貸る、しるとおばもと踊り。高藤氏の「上代に於る支陸文化の影響」貸す。松村一ゑかや、活中の教ゑる。

五日 出勤、「支那語研究」「和歌研究」貸す。通及分一九二〇ゑの。蓄膿社中ゑ、服部いゑし四年。松倉新ゑゑ手紙、五〇〇。同住、郡て語の教師第住ゑ。拒ることせん。

六日 出勤の途服部いやを豊橋のゑ。ゑ「広徳行くと。デ[illegible]」

二株（三〇）買ひ、靴の半皮つけし（三五三）て出勤、書一テーブル松う。帰途服部来り履歴書安取り連絡す。けの四中世

七日 来て出る。服部羽語いでも入れんと。印鑑書記先

但合いての伯母の不評ゑ。外語教師現状厳京教師

廿日 教員ゑし文部省自粛と。帰て歓迎会用の酒ゑ

に伯の同年ゑれんなしめしい音絃後ゑら七三と。大西ん

ハイネ的の方ゑ。ゑ定価一〇〇円ゑゑ。

七日 出勤せんせいカラー見はゑゑ、八の八の元生いやく、三四く出版

新素ゑ挿絵の別ゑ。伯母の方は意ゑくゑ。すでん十部

申込ゑ、他はゑし。帰途り十二時、ちけい咳くつみをやそひとえん

をゑりて方せしをとのゑにや服部いやしん不在、古国ゑして夕食。服

部いゑ

八日 出勤、眠し。図書館ゑ送移寄ゑし原要ゑ。

前山氏の友人て去津ゑの引抜岩口絃三氏を紹介ゑ頼ゑ。服部ん

信書く。帰れば吉田ゑ、厚生社、坂内氏一ゑ手紙、又、芳野氏

ゑへかや。

九日 出勤前鈴木氏ん寄ゑ。書一左方文化の連中来ゑ、ゑ十名

を紹介新聞ゑゑ人ゑ、乗鞍山て新入名紹介会。ゑ

は廿覚。服部いやけば不在、夫人前山氏ゑ伴れて帰ゑ。

生駒慶成氏追放。

十日 出勤、山中嬢と帰途文部省て工ゑ「文部」（三三）神

谷「経済論」（五）貸ゑ。末端まで井上嬢と中、まてやめて

二階ゑ教師ゑ教師ゑゑ、書外、桃うつくしゑかも

ゑとのうつくしとおのおのみれば、すでやまやま八木の三井ゑ訪ん

テイートゑ返し「燈」ゑて話し帰ゑ。

十一日（日）午前中、ゑ。思ゑて「ブーンドレ・トレ」やりし「ゑ」

来ゑ、ゑいく、伯母ん何ゑ大ゑん情報一書貸ゑ、午後のて

ろう、帰れば、名来ろうまなる「ろう又海記」を時
「アの一孤身」「アへと孤身」となるようの字をば
ついけ、そる、書食、しるて、「アルアの経験れい」始る
羽田一まで（十八、〇〇上海と）えれ、れ、ろ医職「以代人」
い「南」をと田宮虎彦、松谷弱ろ、は服部弱ろ
ら人、われは沈合図書館（ものそやと。父、芳野
正、田宮、古田へのや。

四月
十七 服部やとせば甚だ一豆のよてろしと。ともんて紹
は幼稚園にやを我に図書館、書、三聖寺四五十五人の
追加せると（三十ろえい）、畑いやとしのろ、仙田氏い図書館
組合のをろ、明日会すと決り、差伝れ（ケケ氏の時月
をろ、浜田青陵「百済観音」二冊と青木義とを買
え、在務用紙もろて帰るめろ高橋氏いろ「ろ法せし
ちの」六、〇〇いろ遅れ、一七、三一で帰る。けの山崎君一件
五弁の来買よろいの。

十三日 出勤、図書館のをと後指害壮解決と（ろう）気ぬけす、よへ眠
りをろ、眠し、羽田て松谷氏へかき、書、ひつりやのを、芝芳言ろ
受五「思痛記」買よ

十四日 出勤、ハイネ訳し。おろり、帰りの洗車にて差伝氏の牧井君とを
しいろ。今高出す。吉田氏ろかも、ハイネ訳了。甚幸通らしと服
部いしくれしい家電報来了。

十五日 中朝寝、忙して飯食に行き、大掃除、ようて組合報
告。妻を母送執行参ろいかれ九寒、山崎君立寒、代休

寒、荒川氏六、金井氏六（本又六）。あれをと高ゆと、ハイネ
ちろことやりハ本君と帰り、鈴木氏にろ、養伝社い寄る。ようす
ゆろり一出るとて無分せず。

四月
十六日 出勤、山中嬢休ム、ハイネ訳了。ゆろり一ろ日ろ後は山崎
君の銘芝とあろ芳照、ゆろをとろろ。
十七日 出勤、ハイネはよもやる。明日氏誕生祭とて出勤せよと。
服部へと二四山をろ、れ拒さる。むちゆく食中服部へ浴
ハ差伝社へやを、ここでアパートへゆく、ダンスするやらをると、
（可笑。）六、〇〇洗をいろ大くん駅ハ本嬢い会へば金沢
しくるいつしりろし、高橋君いゆく、「五時のアカメを」をいの
の「卵商の」記をしてまいろし。

十八日（日） 家在、書海ろ電報、明朝羽田へを、羽田ろんのキ的
みろまると。入湯。ハイネ続よ。

十九日 代休日と世、大五。の洗をいて至ム一四坂一ろ部へれ。
着ケ名ろ電ハネスト、止ろて待ア羽田ろで歩ケ人ろ待
待ちかれ長汽ちろ日（二一、三〇）書食して待ちるるや、
羽田帰、ろ〇〇待。社山正二結婚と、女ろの看護の混乱甚
しと。夕食ろちいを、一九、〇。ろて大宮ろ直を南ろ、二人城い
つてるろて、ろれ三時いろれ、やろと学ろ電近代の長伝へ南
ムろろし。ゆ今ろりを伝野ろ二冊と青木見「枕草子」
とを買ろし、三島一氏ろハかき、友達の絵ろ九年を後ゆとの不快
ろて行ろを社ヲをろん、名古屋ろ、浜ゆを、
二十日 出勤、俸給ろろ、五一〇日ろ税金ム六。引ろれ伊のを

るし、一四〇〇ヲ執行委員会ニ寄託して帰る。音吉ニ五千円、三
負ニ渡ヲ了シタ。

四月

二十一日　出勤、午前中ノみゝ午後こゝみつ会と決算の会を
強行式、ようやく出れの地獄と、文学者と二足ノ草鞋の
方針策（三五）買い、古日嬢いかゞの書」買い、長谷川氏ニ服
部の「まゝと恋」貸ス。芳郎清ヲ手伝ひ正日祝
祝せしと。

二十二日、音吉ニ古日不二子ニいかゞ、音吉ニ私は「市井の詩人」
推薦せしヲ。鈴木氏ニ寄ラル。○出勤。三島一氏ヘ郵便。（社）新
宅来るとのこと。十二、〇。ネムのる。酒井氏ニ会ス、帰社の
途ヲ。万葉集（二〇）藤岡大変和（三〇）買ス。

二十三日　鈴木氏ニ寄る、おくれて中ヲ作書手伝ハル、高橋
脚ノ印ニ氏ヲ。帰途「芳伝基法」買ス。女房ヲ会ニ
抜屋ヲ。田中ヲ氏ヲ八ッ中の乳、牡。芳郎清ヲ八ッ
かき。

二十四日　出勤の途鈴木氏ニ来ニ外もちゆく、神田ヲ見るヲ
来ラル、ピッリアの相談、終りておそくし世ヲ了ってゆく、おくれ
毒ヲ。寄稿ヲ長編ニ了て帰る。

二十五日（日）「アルプス概説」の抜萃書ヲ出し、ムカ成ヲ、
ヒカリ氏ムヲ来るラン抜しゆく、俗ニ中ヲ上ヲ山へ
子供ヲ了ヲ。田宮虎彦ヲ八ッ中。柏井ヲ
出産、恵と命名（三月二十六、誕生）

二十六日（月）出勤の途鈴木氏ニ中ヲ、長谷川ニ中ヲ一〇〇〇ヲ。

ヒ化掃ヲ。不快、壁紙、明ヲ鈴長上ヲ。外注ニ中ヲ服部
と会ひ、ス就（まく）服部善ヲ長と話し、帰りて書、食
ゆくヲ嬢と帰る。文化ヲ文ヲ三冊（七三）、メカネのつる（八〇）
千ヲ受持ヲ着物ヲ渡ヲ、喜ん、服部ヲ、かゞ
リス「青い花」ヲ。

四月二十七日　出勤の途新宿（四〇）、中嬢と会の、一〇三ヲ執行委
員会ヲ会の鈴ヲ見、新浦来る。話しつゝ、女ヲ技ゆく、社ヲ日峠
氏ニ八ッ中□ヲ来ヲ。執行委員会ヲ。鈴木氏ニ寄ヲ
会終る。帰途「新国静社化論」（三五）買ス、変ヲ
帰る。俗世界（立ヲ）長谷川新ヲ。酒井氏ヲ中田
丸ヲやめ、野井女ヲ（ヒ）

二十八日　九〇〇ヲ注ヲ。ヲ三興（ゆく、近かとりやめ、写ヲ四片撮し、書
ヲ）ゆくらくし。四月二十日出ヲ。四日翌抜ヒとりヲ。近ヲ
ヲ。ヲ、鈴ヘ一三〇〇ヲ（弁当ヲ）一二〇〇近ヲ、喫茶、
服部来り言語研究と文化史買る。帰ヲ、佐ヲ強世、赤イ
ヲ写ヲ人イ永抜正ヲ了。

二十九日　ヲ、ヲ、ヲ、

仏いらんはもと、めたうして歩くことをいちひれいらみるしひと
をあれし（墓地さるく）。敵情の客ひは男性らしく思ほれて諸
触。
三月二日 出勤、昼の人客をを安内、クリスチナ、ロッテイ研究院長の
ためと。一三。「ラ」上の教部長と会之、前の夏相ラ寄の。
周ひ又長体をとも不快、無を苦温和ラ、鈴木女とをし
い不在、力幡君を訪ね、「ムクリッシュ・フレンド」もらして帰る、
善海「ひ代人」「ラ」。史学会会は土日いをしと、和四をを見ら
れしと。終日、此教私へ的中書く、此教私（は「青い花」諸、
「ガイスの子系」はつれと。
三日（日）家居、書簡、午後保田へ行、奈良へ寄れて迎えいをと、
服部氏と相談す。松本善海へ的中。
三月 新憲法発布を体み、ひとりサンデータイム、九、八の流をいや
を間に合せ母服系、去弱者務を訪ね、お祝いのべ、七和ふをやらるのと
いけれ、保田のをゆりしをい鈴木氏にやらせよとをよ。ま方の論政
は川ついをおすと。（「パートにかを服部、金井、吉岡、中村孝ふと
（クレオパトラ双書をを出すと）
一、訪、中村君にあれば語る
新憲法発布の自由をとして。一七、三帰る、雨。夜保田服と
部屋事務所の室家をと調べて、ラ松本氏に云れや
うんと。ラ子支調
四日、サンデータイム出勤、六、五日のラ中女形周八主或いる
をもし。組合の報告せなど手ひ大へ会し、午後組合に出て
土曜の設定をいつを加様、昼近、邦正を舞踊会のを
責任をとる。（三興まう様をもちゆく、食法てが、つ
。をるいかもの明、昼近）。ラ子院教一、はもかを。
三月五、九、八を勤、銀行賢立をを押して出勤、五月八十言る
給と。午後作業、国保協議会、郷会改訂案。長谷に外し
をラ氏の倍言もるゆく。「大和ふを」鈴木女ときまり授校。八木
君動いラおのとりおしもらくる。ちをもはかをしをがめをと答
いをはれをれつ、をいゆくらしも。ラ子中遠ををを出。
六日 六、五日の流をいラおこれ、九、八をい行で電をいつゆく、一〇番
ラ組合の報告。ず、反御をを。文化部を録作をを要御書
記をいをの。けの電をいて井上女と会い廿日女と女子関事設
い勤のをしと希望せるとラ。言山幸は中言の対と教之望
お。「やらし。ひかをこのわれをおりてをくるひとをと思ふ」は
ぐるは々。帰金言語をいをる。流をいて長谷に松井君と会ふ
ひかをいうんはを。けふ史宇治へ低をあやを池へ遠を。
七日 九、八いて客を三興いやを流四部をラ五。〇〇もらお。（服部
い一〇〇、言語をい一〇〇代し、低い三五〇ひを了）、流をいを終
いりんやをいん九、〇〇一九、〇〇までを勤と。別村「外来語の話」（五
「ラ支母夏大学」「録の話」ラ。八木をい様語もラ
やをしも山や「長ラ」、すぐ帰る。大晴協約改訂の会のとラ
きの不、中を別記氏氏い会し（正午）服部来ラ転（七五）
四人はなのと、頼ずおく、長谷ラ富私をの他跡えのをを日
きして不快、服部教私ラ「青い花」のを「ガイスの子系」のを。

月八日 出勤の途、改口君と中之、南岳前に来し岸成南の
子夫人は従姉と、別して小幡君に片栗粉を贈り、壁鏡、白長
東京、文部新聞との会見、金井君に会つみ、夜て服部新行委
員長に会ひ新聞社中出、中名部氏に会して承諾せしめ、
又三郎時報社に就井氏訪ひて酒井氏の手紙(けせ)を
見て来。処にのみ、電話なんのみ知人多くて、やうやく
西の方の伝言(識君形)を中をて宮和内閣について話し
(小幡氏帰るの花袋)電話なんの不出 嬉しみ、おるるとかる
帰宅後伯父中家のをのうしを読み、父母とも〳〵安堵
安と話ありてみてつよ、めしあるるをかる。
九日(日) 松宮氏より手紙、独逸語取扱ひて、家出しと。相談す
いかに。一三〇家を出て服部にしたがひて酒井氏を訪り
宮氏とを不在、奥に緒方、一六、一四の流をんて帰宅、
夕金井君に電話の文案、新会見より、オ加ティ
ストとペンをストか。
十日 出勤の途、体操に寄り酒井氏「二和文」の話、同氏に
後を不断るるんいろ〳〵。壁鏡、山崎氏に会ひ文案
新会法をくもとして。服部来て、愛大行に出人を訪と。
十一日 日曜やくて。一六、一四にて帰宅、芹沢請をんのも。服部
社長会議、相談、外山氏宅へいかに。
十二日 出勤、一〇、〇〇より国体協約改訂委員会、実行委員を入れ
よとつの。一二、三〇すぐ執行委員会(古。国名委員長を
欠ひ)三興の秘書部を訪ひ。一六、〇〇中宮と出て別れ
宮橋にかかて煙草を吸し、名古屋、二〇、二八天王寺を
しもいかにて名阪行急行のり、名阪ホテル和室に泊
明朝出て帰る(二五、三〇)金子氏服部に電報、家内つみ
りしと。
十三日 出勤(一〇、三〇より組合報告、国体協約改訂委の経過、
各々部を補ふかや。帰りて家に出せり(三九)
より三五のかに、おい法、留守中欠来しと、みしめる法も
と、かやの木の多い家のとにねしくれをると。(柳田君、神
宮と長谷寺)。
十四日 出勤、三興国新君来り、天平長谷寺で遊戯
に紹介状書く。改訂案書を写る。帰り前に老幼院の
おくやみへゆく。をとめとみたのそろひてかくるへやひとりおもへる
ものかこころで。小山崎に南竹氏に口の父君より原書
はやく来おとと。
十四日 ふい方眠、九の八にて外語(ロシヤ)酒井氏日と話をし
と、三十日之会とと、服部委大(中とし駅員と、帰宅改訂案
の反対山崎八木君やうし、眠し、中名栄に中之人来り大毎
の井上氏より中之人とと来りと、二千人の書をなををとし、
外山氏宅、古日不二氏より手紙。山崎氏より入り歌二三。
ひ寝よ。帰れば来日君来る、宮日民社より的中。
十五日 出勤、大掃除、すみて後名の送歌、八からし、名古(ゆき
セ千人ほど、ごゆーニ人る。東京西之丁氏伊年目で、帰り三指
の表を伝へ合よ、明表私より的中。

五月十六日(日)雨、無め、保田のわ坊おまし、史せんぱいとゆもし
ゆかけ四、のちほど行きて二合刈りして帰る。
十七 去勤の金、鈴木氏に今酒井さんを自らに拝借と、大和さ
ものとい(伝)徹の中、不快、あとで仲直りゆ四まれどひまれしい
やさ、弱き人が、聖餐、団体協約改訂案動り半後保氏の
ゆかる、宮敬と言いる話ちゆ仕事外、ゆの八木氏晩餐会とて
勤、帰り、「安堂」(竹部君の妻)「安堂の歌」買よ。
十八 五治の駅、八木君に見舞いしちゆく、父母帰りと、浜多
いち方氏の婚の氏まらし会め、執行委員会かた、最
後い口体協約改訂案、宮敬と言を清ずと、服部ゆて金
井さいゆて、宮勤紀念の講演弱月をいよ、酒井さを之合。
の和手をつかまらしい地にる、中島協治氏に会わ。
十九日 去勤、山崎君と荒川氏と事務つれかはりと。けか不快度
鬱、ちちち上治せんと思わ、帰り米田書記に寄る、帰りて
早寝
二十日 去勤、電をストやめしと。帰り山中氏と八木氏と会舞よ、
耳下脈ちちち。
二十一日 九〇八の汽車にて京ト行、一一、三四着、京方氏に中さしい義
協帰宅、大石ゆて伝言、岩田に会(アリアドネ)の書評
ちと、京方氏に川返し、岩田に会よ、「松茸」を作手ちしてト
と、石浜さを一〇箱貸りしと、鈴木氏のこと伝し、外山氏にゆを
モースの「去来」について長話への伝ちを、「去来4」買て
和田(ゆ)に会へゆとと、帰ゆ又主を歓宅に誘ゆと、孤板らし
く病臥と、去来のを常識いてやるかうと、和田へ寄夕食、二十九日
ちち大ちる会いちゆゆと、去来のを問ひてみん、来年ちちえて
へ来よと。下行ゆゆを伝ゆと伝す。
二十二日 雨、家板へ中しちゆく、鈴木氏を「庭右宅」へ出と、和田
伝。去来の陸ちん会に人を出しもゆの一面のちの伝を聞ゆい
ちしん帰宅、服部ゆゆ、大石の会と、去人と話して帰よ。
外山氏ちち手紙。
二十三日(日)晴、書斎で眠ち、午後保田へゆて二、第と協議、富れ
の手紙協ちして来ち、出ちる大和さちの会と、協本を来ちしちち
礼ゆ。保田氏ちちちをみて帰ち、会ちをいい、夕食をことわ
りて帰れ、二一〇〇。けお裕と(速達)、ゆんちゆ手ちる和ちゆ
り来協ちちちて。和田の手紙、古田氏のかゆ来ま。
二十四日 去勤去へ鈴木氏に寄ちちのをいお、聖餐、ハウア
リスやちえい、李朝実録、伝来協ゆ、まて六時ちのゆ山ちる
らを来ゆし来ち、帰して宮敬と言の話快活ちを
終ちちえに伊ゆちゆん。図書館ちゆ校富五丈要と
ちちと。一五、三〇長話れゆを保田の追放とおはせて大和
文ちのを表会計名ちゆ、中山正善後悲ちしくちし
てちしと。大阪氏に外山氏のをちよ。杉浦ちハカキ
二十五日 去勤、山本ゆちちゆちゆ、一一〇〇ち執行委ちを会、そ
協会の要ちゆへちるを生ちよ。まて鈴ゆちち、服部ゆちん
とせしゆちを出ゆ。帰て保田ゆを明日ちを去よ、弟君にそれば
追放とちしと、ち毫ちと。

五月二十六日 [illegible] 会に出席。一三〇〇出て義士、義塾に（やく、不快、前日吉村保四郎六〇才（ところ）家内にて亡くなりの会、新聞は義塾社員なり。二〇〇帰宅。（夕の服部と一〇〇帰る）。

二十七日 出勤、三興の石倉、印刷もち来る、山ゲを載せる。手紙、加藤山形知らせしと。文化会のことに吉野氏の評へ会井ら

[illegible]

[illegible]

二十八日 疲れて九〇〇出来る、義塾社山田君来て外山君のことい（伝明答せよと）よ、酒井巻来られしはうれんのことまで。義塾社日記。ピッツバの広告代の記名書く。木村君ゆんに直言す。帰途高橋君来たりてゆけば疲至いたる。して名、主ちゆんはすみやかにとあらのゆくすると

[illegible]

おもわ

二十九日 出勤、ピッツバの財産書をうる。午後三時へゆき三興へゆき浅田君に会ふ、支那や説をやりくれ、ぶんやりの「風流清経」の如きもの。帰りハ木いやを辺君に会ふ、来月の目方にて雲らし手紙「民族治まの政治」もらる。高木君に「代数定義」。

三十日（日） 書わ、午後坂口君 [illegible] 区にゆく、留守、帰れば藤君来る、高等解消せしと、八日（夫）来ると、送りもしと保田や君会、留守。

三十一日 出勤、大掃除、すべて服部に会ふ信金のことやらせの。故傍、八木の生書きはすべて不良、耳鼻エビ[illegible]来車、夜来田君。

生徒もく、二合半。

六月一日 出勤、一〇〇神田三丁目、[illegible]の工会国をつれて来る、中田君次郎君来、要田し、神田三丁目ピッツバの話。

[illegible]

[illegible]

二日 出勤、国民協会動いてる。雨、義塾社員の氏に酒井[illegible]

三日 六、五日の流れ[illegible]義塾（[illegible]）を訪ひ、泊って三興へゆく、結新の中こうでん近日[illegible]

[illegible]（二〇日）を[illegible]。帰りて協会を[illegible]、執務[illegible]会。すみて義塾社。帰れば[illegible]の来たりと、[illegible]を訪ひて[illegible]。

四日 一〇〇出勤、ひる、読至そう室塚ら[illegible]なく。杉浦、[illegible]の教社へ[illegible]。午後国民協会のことで組合の部の会。帰り芝田義[illegible]と、山中嬢と[illegible]。

五日 出勤、二日分給料と[illegible]給つとで[illegible]井[illegible]不快、[illegible]のみ。服部来り義塾社で一[illegible]再服。二十日もらひしと。故傍[illegible]。帰り[illegible]井君[illegible]。[illegible]

六日 [illegible]十一時[illegible]。[illegible]大和国[illegible]

[illegible]

二日（日） 羽田と羽金[illegible]。羽倉、時事通信[illegible]。

午後 [illegible]の手[illegible]の如へゆく。

六月廿日 出勤、三好訪問、山田武越へ会す。事なし。

八日 出勤(九〇八の法会)。午後執行委員会、立上位は不多能、立上位は無言味と判明。

九日 出勤、吉岡君の国事給与問題、如し立至すと苦く、六月分給料支給し、税金一四〇四は送入る。芳郷上より分かち、気配へるのみ。聊奇面白のてよはのみ。雄書房より感想文。

十日 出勤、江幡清氏(大阪論説委員、四十一歳大阪毒舌)正午来訪、学位の話、送辞は勢満アメリカのもし会と絶望的なり。

十一日 出勤、書一、如の玉菊と絶る、作業としてひかの芽摘りまて仕合の報告。

十二日 出勤、午後養徒社(中之、服部(中之しん京都(中之て子在(三興子堂ひレニ三〇。子一〇〇。服部夫人はかへり)。老人結核部翌日、まとも魂三版出るらしと。吉岡君と帰宅して帰る。空梅雨にて苦し

十三日(日) 八〇〇の法会にて故像、玄井君へ寄り肥ふいかく。十三四里作ることと、ひやの芽とそろそろと踏りて帰る。玄井君にて久美子の婚い会よ。本陸にてもみとれしいく歌のてこひんなるくしるしたりける。いまそらん伊をかいはれこそそそそそそそそしこのひとときを、吉田めしを召よ

十四日 出勤、事なし、夕方久しぶりん雨。

六月

十五日 出勤、大阪陸、ひつりアの相法、吉田不二子氏(山中八、末二嬢と手紙。午後文教部(中之)養徒室委員、代議員会にて困惑状況、すめば一九〇、山崎君にて夕食にて帰宅如三二、二〇。

十六日 京都行の用意して出勤、法華氏、吉岡君、服部に会ゆきて養徒社委員会の手伝し、会世吉郎の出張の寄ぬし田代塚始すりてゆ中、服部記事、金七中をを決定自相談にて、おしむ、吉岡君へ八ろ中アパートにやとり夕食、服部と相談てし、心遣まとめあらず。京醤、正善は考慮をよとのことと、二四〇〇宿泊

十七日 八〇〇発て、九〇八の電にて吉岡君と上田をとへ中をこ相談をすて、安達史研究生にそらへ、法和(中之しかの三人にて四相談をしてを六史論双の相法ヲ先ま法和(中之、残有助吉郎にもけば書にはとはずと、四の印へ中之夕食ヲ4、下伝ひ(中之三〇位にて帰る。大中寺をやめて印刷をやると。最終電にて帰宅。

十八日 会議を終を遠学、中かず、九〇八の法会にて中之養徒社を富ふとやる。三四村氏の満ヲ会瓶梅のをつてしん四千円をうけと、四四へハがき書く。帰り京橋氏に寄り、外注の相談をする。帰り吉伝社の松井氏と会ひ、きけばねはをの遠藤氏会論双を仰ぎんとはせしなりと。

十九日 出勤、午後服部起会委員会、十京社会にて私日をへ法会をと、杉浦をハがき、不二子月ヲ。終日雨。

六月

二十九日(日) 九時出勤、雨、萬葉集よみはじめ、畫たかえ
衛氏、安野氏らと来る。七夕の部なり。わが私家版を
和田氏へ伝授す。安津夫人へ申しそえし也。この間より
伊勢こうめし大字治の私伝張之と、六年四十才、やはり
病し。つまおすて梅雨にはいる上水ん(しつ)し友を
かなしとはいえ。

二十九日 出勤、和田氏、八木君いらる。昨日出版(上)
原稿一八〇。もらう。「紀貴之」「崑崙の玉」と写す。帰り
反金子一八〇。もらう。「紀貴之」「崑崙の玉」と写す。帰り
り金井君、ちんと山中嬢とアイスやきおごりなる。帰れば
ひるまで服部氏人来りしと。服部の父世去られし。

三十日 出勤、畫休み大夏まく。午後図書館で執行委員会、三五
ペースの三上氏れみて図書館もの。その後、記事処理ひもめ
る。帰り山崎君ん夕飯中勉強なり、電話あんて帰る。

三十日 出勤、畫休み二嬢と六夏十夏蒔く。馬鈴薯西給と、けや
伝無へ中ととて古岡君来りしと。けの女婦人会ん、ダッペんとあ
ひ、れし。

二十四日 九〇〇より文部省と記紀研究会の結成帰
えし、記紀れり出せり大和の会の会と、新の入会(伝家八十二
氏)歌匠会、十四健出会来りれ委員会す。一四、三〇。出て吉
橋君いゆく(けの服部来り、貴方を浮世(まえと)。帰りん
記紀れへ来る。夜来田君来り泊す。

三十五日 出勤、暑し。帰り記紀れへゆき古岡君ん明日の会
のをかりえれしんそのず、けの出勤の途、橋井工部会長、私
接会にて出現者と芝先生義とい義をとりかれて用ひせしと。
芳野清、来。ラムプ。

六月三十日 午前雨、午後古今会と古。井宮さんとて文芸係れ
ひゆく伝無前、古村をうしは四時すぎ、大和文学会今月座後会
夕食後宮橋君へ(ラムプ)しも今村嬢迎りてゆきしは二三〇。
服部節氏豊橋へ行けり、二四、三〇。陳氏いねさしもらる

二十七日(日) 九〇〇より起て勉強し、二一〇。吉橋君へゆく。伝
四つれ来る。電話して和楽館へ行き一五〇。まで居り皆長
宅へ接拶後、美紀れへ来る。帰れば和田氏三四村
渡辺金瓶梅の風諸と。

三十日 九〇八にて出勤、鈴木氏三四村氏のと方法もく来るべしと。
和田氏連(達)来く。吉橋氏、ゆ氏和田氏へ会うしんなる浮
みなはず、めら木氏中部ゆ出伝すと方ゆ田宮男橋と。
奇田書服おろう吉橋君の同人諸と。安津夫婦名。二、一
五、三〇。清水氏氏ゆ来る。会ゆ、高雄氏来方家めるう。け
ゆ文部と会之、山崎君へ伝て帰る。保田へ来る。

二十九日 出勤、九〇〇より服部氏氏全うちの文部氏ん中へ、正午後
り、午後は執行委員会、三上氏そのゆひらしとて返上せしひ。服
田の地震は終りと。保田へ日まで メキシコ氏を見るをうらん
ちゃんと不在。

三十日 休日の文部氏との相談にて図書館委三上氏と。大掃除し
八木君の妹住吉嬢の名誉の相談。まて奈良へゆくとせしは果
て図書館講習南きしは明し。明日ラジオ車山内美夫。

七月一日 出勤。午後六時四〇の汽車にて帰宅、八〇〇下る。夜新聞社
協力、辻部長、私主宰者と三社員の外陳情隆調。午後零
一三〇〇館に帰る。午後新三郎氏に会ひ十四冊買ふ。三四日又
(いと)出来ると言ふ。中村、山中、宮元、宮長、佐野、図書
館に一冊づゝ。酒井君より来る。表紙なしの本は神戸の西松
堂氏へ寄る。砂糖配給なる。

二日 午前辻部長しゃくん陳て眼らせし。登録後執行委
員会迄を話く。午後一時半帰る。二嬢と帰る。八木
いやそはに会ひハイネ一冊買ふ。すぐくるし。前日と異
なるかき、聊寄校了。

三日 登録、神田氏来られて図書の陳列、調子悪しく、
ひつりの那珂、外ふとぼて退職、山中八木二嬢と外人部
陳えんとせしが、北村氏、死なんず。平瑞二陳堂氏で
安く、服部氏に不良。遅刻会と、去人の豊橋中学校へ
八、二九の汽車にて帰る。吉田君すすめ三十五銭一冊。
四日(土) 朝教育のみなる。午後図書館を姉妹来る。八〇〇
伊勢へ行く。おそ(に)目的なるやうなれ、王政にあらず。明日
八かき、三四和氏地震のため信州へ。
五日 出勤、芝山氏駅にまで代せ、教育研究の陳列にて上野
国へし。書籍すべし。書にて良し、一二、四〇の電話行れる。
三時(ゆえ二〇〇)ルスル。咖茶、湖南ッ彩之那海(三〇)寄
れ、来れ内陸なるべき来よへ、ハイネ五冊もらひ上野井
と会ひ山もて中を一八、玉 来統を乗りて帰る。力貴松二

郎豊橋へ来る。

七日 六〇〇出勤、帰宅之原氏に会ひ、十年目ぶり、まづ大筆しおく
るつもりと。午後執行委員会、図書館の委員改選を云ふ
なる騒然たり。(六、三〇服部へ豊橋のとこれ。出かけ)
しにやんと結び。帰れば和田より電報、八日三四和氏と来ると。
帰れば宮村嬢に一〇日休らし、私とでハイネ、夕方成し来田君に
も一冊。

八日 出勤、苦しし、委員改選やらんとしも京都なるべしめ
午後図書館諸事ものかし。

九日 出勤、一〇、三〇より委員改選。中村千村二氏当選、和田氏
田村氏と満文金和地山ちまる。図書館を安田し、委員
依頼へ中き亀井「現代人の過正」とレラーもらひし。
二氏を送りて西ーまるやを依頼氏にまう なまひの
ちとの。帰り丹波市一八、二九に間に合ひし。(大和文
化)

十日 出勤、汽車いおくれ電話にゆく。(文部省出張)
中村木村二氏に引つる。一二、五〇にて八木、山中二嬢を不帰
りしると会はしに、一五〇〇の汽車にて帰りしに不来嬢となる。三
時(ゆえ)来井女子一〇〇〇信ふ。汽車は君友達にて来る。
十一日(日) よべ引き発送人にて良井 陳列のための切し
の中迄にて引る。朝やゝ良し。午後まるる電話、松井
脳溢血にて意識不明。ゆえ家に氏に一〇〇〇信り、志賀
四〇〇〇にて出かけ。午後にゆえ帰れば三郎来り
信。仰自ゆえ、夕の三社との関係なるべ信。

七月十二日　朝五時、出発の仕度をす。七〇〇とし、家を出、七四〇名張行いの列車に乗る。四日間、こやの芋もちやく。図書館、ゆきを郵便局やり、家永氏へ電話して休暇より帰りと伝郵便局へ帰り、一八三〇にて帰り、こやの芋立く。八木嬢まりに別れを告げる。服部家に泊る。

十三日　朝、雨。午後、晴。午前、郵便局の地図を作り、書類、八木氏へ郵送。午後、午前、午後、郵便局へ行き、午前、午後、郵便局へ行き、午前、午後、郵便局へ行き

家を出、車より[illegible]田[illegible]へ行くため、銀座に立寄る。一八〇。
[illegible]三、二五の[illegible]は[illegible]都行をまちて乗る。[illegible]れと眠れず。
七月
十九日 [illegible]言[illegible]郵便。八[illegible]時[illegible]書[illegible]の[illegible]
女を訪ねしも不在。一三、一八の[illegible]行のり一五〇。[illegible]
[illegible]三[illegible][illegible]の[illegible]。一二、三〇の[illegible]
[illegible]。西[illegible]
[illegible]帰[illegible]
[illegible]歌[illegible]二冊、[illegible]
[illegible]。
二十日 九〇〇の[illegible]図書館へゆく。[illegible]
岳父母[illegible]。給料のうちより[illegible]明日来[illegible]。銀
[illegible]へゆき[illegible]。帽[illegible]服[illegible]
[illegible]。[illegible]
[illegible]。一八〇〇
夜来[illegible]来る(げに上は一[illegible]会して大正[illegible]
二十一日 九〇〇[illegible]俸給の残り二二〇。もるる。銀金七円と
[illegible]。一二、三八のうんとせしん[illegible]
[illegible]。八本[illegible]
(三〇)[illegible]。[illegible]
[illegible]
(一二〇)[illegible]。
二十二日 九〇八の[illegible]、保[illegible]坊と妙[illegible]
くるとせ、[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]